

# 松江圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成25年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H25目標	H25実績	達成率
松江-1	多様なニーズに沿った産直農産物の生産・販売推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産工程管理研修、加工衛生管理研修、出荷研修等を実施し、安全な農産物生産技術の向上と、生産管理記録の徹底を図った。</li> <li>産直店舗・インショップ産直コーナーの開設・リニューアルにあわせて、生産者組織の設立や連携により、出荷・供給体制の強化をすすめて、販売強化につながった。</li> <li>環境にやさしい農業への取り組みをさらに広げ、安全・安心な農産物生産のための技術導入や生産工程管理の改善をすすめていく必要がある。</li> <li>新しい特産品の推進は、ショウガ等着実に進んでいる品目がある一方で、共販品目の伸びは低調で、今後とも生産拡大を図る必要がある。</li> <li>公共機関や旅館等への地場農産物の供給は、需給相互の課題を解決しながら、体制づくりが進められた。さらなる供給拡大を進めていく。</li> </ul>	産直販売額(百万円)	680	644	95%
松江-2	まつえ特産品(松江の柿・くにびきキャベツ)産地強化プロジェクト	<p>【キャベツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャベツのねこぶ病の発生実態調査と土壌診断を行い、圃場の実態把握に努めた。さらに干拓宮農協協会での作付け推進や生産基盤の整備対策として暗渠排水対策事業の推進を実施する等の対策をおこなったが、生産面積が36haと横ばいとなった。</li> <li>営農塾については計画どおり作業を進めた結果、6月に開講、3月に閉講、4名が受講し、うち1名が認定就農者となった。26年度も事業導入することで、継続することとなった。</li> <li>新規就農者1名がH25.4からキャベツ栽培を始めた。</li> </ul> <p>【柿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな担い手の育成確保のため、8~12月にわたって関係機関で柿塾立ち上げに係る検討を実施し、26年5月から「だんだん営農塾柿コース」として開講が決定した。しかし作業受委託、圃地流動化の推進に向けて具体的な対策が打ち出せておらず、今後も継続して検討する予定である。</li> <li>あんぼ柿加工については、イオウ燻蒸なしのあんぼ柿加工に向け試験加工を実施した他、衛生管理啓発を実施した。衛生管理啓発は生産者からの反響が大きかったこともあり、次年度も継続予定である。</li> <li>販路確保のため市場訪問、販促を実施した。特に京都・大阪市場ではあんぼ柿の需要の強さを確認でき、更に名古屋松阪屋でのあんぼ柿販促、台湾での販売も好評であった。しかし東京ではあんぼ柿の知名度があまり高くなく、特産品カタログの活用等により知名度アップに向け取り組む必要がある。</li> </ul>	キャベツの新規栽培者数(累計:人)	2	1	50%
			キャベツ生産面積(ha)	38	36	95%
			西条柿の新規栽培者数(累計:人)	2	0	0%
			西条柿の販売金額(百万円) ※JA共同販売金額	93	86	92%
松江-3	地域資源(人、技、遺伝子資源、文化)をフル活用した「松江大根島牡丹」の生産基盤の再構築と高付加価値商品の販売拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産者の意向調査を実施。今後の産地の生産体制の整備方向を協議する基礎資料とする。</li> <li>認定就農者の研修及び補助事業・資金借入計画作成、農地の確保等の支援を行った。(H26.1月から就農。)</li> <li>品種データベースは、順調に作業を進めており、353品種については平成26年度完成の見込み。</li> <li>データベースの活用及び販売促進策について流通販売業者と意見交換を実施するとともに、バイヤーへの情報提供や試験販売を実施。</li> <li>台湾へのH25年度の輸出可能品種、本数を提示し、取引計画を協議した。その結果、輸出苗数が増加した。</li> <li>ロシアについては極東地域での商談を進めるとともに、新たにサンクトペテルブルグ等同国西部での販売も推進している。</li> <li>ロシアへの輸出拡大に向け、安定供給体制確立のため生産者組織を設立した。</li> <li>国内販路拡大に向け、鴻巣花卉市場での品評会の開催や流通販売業者との商談を進め産地PRや需要の掘り起こしを進めた。(計2回:9月、11月)</li> </ul>	台湾の春節需要に応じた輸出苗数(本)	2,000	2,200	110%
			ロシアへの輸出苗数(本)	3,000	2,280	76%

## 松江圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成25年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H25目標	H25実績	達成率
松江-4	やすぎ地域特産物の産地活性化と地産地消の推進プロジェクト	<p><b>【いちご】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産地ビジョンの作成意欲が醸成され、H26年度にワークショップが開催されることとなった。</li> <li>・いちごピューレ(一次加工品)を使った加工品が商品化され、周年PRできる体制が整ってきた。また、イメージキャラクター「やすぎのいちごちゃん」を活用した効果的なPR活動が実施できた。</li> <li>・新品種「かおり野」の栽培推進により、栽培希望者が増加する見込み。</li> <li>・白ろう果対策では効果が期待できる資材を確認することができた。</li> <li>・新品種導入・加工品開発等により取扱額アップを目指した結果、いちごについては目標を達成できた。</li> </ul> <p><b>【花き】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トルコギキョウやストックでの販売実績が上がり、カラーや宿根カスミソウなど新規品目の伸びが期待できる一方で、昨年の豪雨の影響もあって輪ギクやHBスターチスでは横ばい、低下が見られた。</li> <li>・トルコギキョウではJA育苗センターの苗質が向上してきたが、共同選花場については、利用者がまだ少なく課題を残した。</li> <li>・新規就農者の経営安定については、計画的に巡回指導、検討が実施できた。</li> <li>・技術指導、選花場運営等各種支援を展開し、生産拡大に努めたが、花き全体では目標達成に至らなかった。</li> </ul> <p><b>【地産地消】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ制とアドバイザー制度の構築により、生産体制の整備ができた。</li> <li>・計画的な講座やセミナー開催により、多くの生産者の知識と意識の向上が図れたが、一方で販売額が伸び悩んでいるため、顧客確保のための具体的な手法を検討する必要がある。</li> <li>・各種対策により総合的に出荷促進を図ったことで前年実績を上回ったが、目標達成には至らなかった。</li> </ul>	JA取扱額(百万円) (いちご、花き)	395	388	98%
			JA直売販売額(百万円)	350	271	77%